平成２６年度

猿払村教育行政執行方針

猿払村教育委員会

◎　はじめに

科学技術と社会の係わりが深化・複雑化する現代は、知識を一度習得すれば終わりという従来型の学びではなく、基礎的な力と必要なものを選択して取り込み活用する力が求められております。また、孤立化が引き起こす諸問題の解消には、自分と異なる文化や意見を持った人とも折り合いをつけ共生していくことが今まで以上に重要な社会になると予想され、改めて教育行政の役割と責任を厳粛に受け止めているところであります。

そのような情勢の中、国は四つの基本的方向を第 2 期教育振興基本計画にまとめ、「社会を生き抜く力の養成」など自立・協働・創造に向けた主体的に学ぶ力の育成を目指しております。

本村においても社会動向を踏まえ、一人一人の個性の伸長と自立、多様性の尊重と協働する力の育成など未来を拓く人を育むという使命のもと、猿払村の教育目標である「心豊かにたくましく生きる人を育む」ことを目指し、関係部局や機関・団体との連携を図りながら教育行政を推進してまいります。

以下、学校教育、社会教育の順に教育推進の基本姿勢と主要な施策について申し上げます。

◎　成長の実感ある学校教育の推進

＊　学力三要素を高めたくましく生きる人育む教育の推進

北海道教育委員会では、オール北海道で学力向上を目指し基礎学力の定着や学習習慣・読書を含む生活習慣の課題克服、学ぶ意欲の向上を学校・家庭・地域が一体となって取り組む必要性を示しております。

本村といたしましても、同様な課題を包含していることから、これまでの取組を充実させると共に成長の実感をもとに意欲と誇りを持って「明日の世界を築く」力を育成するため、学力三要素に沿った学校教育行政を進めてまいります。

その一つ目は、基礎的基本的な学力についてであります。各学校では、その習得めざし特色を生かした取組が進められておりますが、更に効果あるものにできるよう学力テストや人間関係づくりアンケートの分析を深め、猿払の子どもたちの特徴や傾向をまとめ伝えるだけでなく、検査結果を有効活用したり優れた指導や取組を紹介し、子どもの可能性を伸ばす実践的指導更に充実するよう情報提供に努めてまいります。

また、子どもの確かな成長を保証する小・中 9 年間の一貫した教育推進のため、

校長会を中心に一昨年は「発達のマトリクス」「国語・算数の指導方法を学びあえるシステム」を構築し教師力の向上を図っており、昨年は「猿払村統一問題集(仮称)」という基礎学力向上のための独自の取組が進められてまいりました。今年度は「猿払村統一問題集(仮称)」の有効活用と授業力向上に重点を置き「できる喜び」が実感できる教育が進むよう教育行政を進めてまいります。

二つ目は、課題解決能力を高めることについてであります。課題解決の力を高めるには、今までの知識を活用し考える力を高めるだけでなく、主体的に疑問を調べたり継続して学び続ける学習習慣の形成が重要であり、そのことが学ぶ力や分かる楽しさにつながることが明らかになっております。

そのため、村内各小中学校では工夫を凝らした「家庭学習」の取組が進められており、多様な成果も生まれております。今年度は、各校の成果を共有し猿払らしい家庭学習の目安を作成することと、効果ある実践を学び合える情報提供を学校間だけでなく保護者にも行い、主体的に学び課題解決力のある子どもの育成を進める一つとして取り組んでまいります。

長期休業中の学び機会の提供として学習ケアを行っている学校も増えおりますことから、その成果や課題を交流し更にニーズに即した学習機会の提供につなげていけるよう支援してまいります。

三つ目は、学びの興味付けと意欲についてであります。自ら学ぶ意欲の向上には、好奇心の揺さぶりや感動、そして成就感などが指摘されておりますことから、本村でもそのような体験を積むことができるよう、社会教育が中心になって本村出身者の大学生を核に学習機会を進めてまいります。それ以外にも北海道教育大学の授業実践力向上に向けた実習生を特定の学校に受け入れ、学習のサポートや子どもたちの多様な出会いを増やし、社会性豊かで意欲的に学ぶ子どもの育ちへつなげたいと考えております。

また、発達上の課題を持つ子どもへの支援充実が図られるよう特別支援員を配置し、ニーズに即した支援を可能にする体制づくりを進めると共に障がいの理解を深め教師力の向上を図りながら特別支援教育の充実に努めてまいります。特に就学指導についての取り扱いが変更となりましたことから、特別支援教育への丁寧な啓蒙に努め、中学卒業後の進路までを見通した教育が展開できるよう関係機関との連携を密にし、今まで以上に障害のある児童生徒の主体的な取組を支援し自立と共生を目指した教育を進めてまいります。

＊　豊かな心と健やかな体を育む教育の推進

心身の健やかな成長は、多様な交わりや体験を通して理想の姿がモデル化され、その形成過程の中で、命の大切さや公共心など人として大切な資質を身につけることから、本村においても地域の特性を生かした主体的な係わりと体験的な学習

を積極的に取り入れる教育活動を支援してまいります。

楽しい学級づくり診断（QU）テストの有効活用を図り、思いを伝え合い折り合いをつけ協働できる人づくりを支援してまいります。そのため、診断テストの分析・活用方法を学ぶ機会を設け教育相談が更に充実して、個に応じた目標づくりや集団の中で豊かな成長を促すことができるよう支援してまいります。

本村では、全校で体力テストの実施と分析が行われ、それをもとに各学校の実情にあった独自の取組を通し、改善に向けた実践が重ねられており、「どさんこ元気アップチャレンジ」では、全道１位の結果を残す子どもがでるなど体力向上に向けた各校の取組が功を奏しているところであります。今年度は、各学校の良さを学びあえる関係の充実を図ると共に子どもの遊びの状況や環境を検証し、その課題克服を図ることができるよう情報提供等支援してまいります。

本村の子どもたちの実態調査から、「地域や社会の出来事を話し合う環境で育った子どもたちは考える能力が高い」という顕著な結果が出たことから、学校でも家庭でもそのような取組が充実するよう積極的な啓発に努めてまいります。

自己理解が確かな人物は、相手のことを考える力や言葉を持ち、悪い誘いを断る自己指導力を育みやすいといわれます。現在学校で検討している「自分史」づくりを支援し、自分の歴史が記録され振り返る機会をもち、目標に向かってたくましく生きる力を養うと共にふるさとへの愛着が高まる教育が充実するよう協力して支援してまいります。

夢や希望を紡ぐ教育を地域と共に推進できるよう、チーズ作りなど特色ある教育活動を支援し、地域の特性を活用する学習を支援してまいります。また、そのような取組が将来的に障がいのある子どもたちの仕事としてもつながる展望を持って教育環境を整えてまいります。

＊　安全・安心の環境づくりの推進

ネットの危険性、いじめなどの人権問題、自然災害など安心・安全な環境が強く求められております。それらの問題はいつでもどこでも起こりうる可能性があるため、予防的対応と発生時の被害を最小限にする学びを外部の力も借りながら充実してまいります。

ネット上のいじめや個人情報が流出しないようネットパトロールを実施し、生徒指導連絡協議会等で状況を交流し対処方法を学びあえる環境を整備したり、ネット社会で生きる子どもたちが安全に使いこなせるよう外部専門家の招聘等を活用し子どもも大人も学べる機会を奨励してまいります。

年数回のいじめアンケートの読み取りを丁寧に行い、子どもの状況を把握する

と共に課題等には迅速に対応できる部署を設けたりカウンセラーの巡回を行うなど、子どもがさわやかに生活できる教育を進めてまいります。また、稚内の適応教室とも連携し月に一度のサポート会議のなかで専門家の力も借りるなど、関係機関との連携を密に丁寧に進めてまいります。

学校構造物の耐震化については 100％実施されておまりますが、非構造物への対応が十分ではない状況であります。子どもの安全を守ることはもちろん、避難所にも指定されている学校が多いことから、今年度より調査を開始し非構造物についても安全・安心の環境作りを進めてまいります。

学校の統廃合につきましては、学校適正配置審議会を開催しその中で望ましいあり方を保護者・地域の方々など関係各位の声を聴きながら、丁寧に進めてまいります。

◎　生涯を通じた学びを育む社会教育の推進

＊　喜びのある生涯学習の充実

「小にして学べば壮にして為すことあり、壮にして学べば老いて衰えず、老いて学べば死して朽ちず」と生涯学習の必要性が伝えられています。本村においても、学ぶ意欲を高め興味わく学習機会を提供し「社会が人を育み、人が社会を作る」という好循環を生み出す村をめざし社会教育を進めてまいります。

これからの社会で求められている自立・協働・創造は、読書と大きく係わっていることから、本村ではここ数年図書室蔵書数を増やすことだけでなく、読みたくなる展示を可能とする備品の整備や図書室イベントを新たに行い、平成２４年度は前年度比 27％の増、平成２５年は前年度比 46％の増と貸出数も順調に増えてまいりました。

今年度は、今までの猿払の子どもたちの調査研究から分かった、「考える力(応用力)が高い子どもたちは、読書の量や社会・地域での出来事を話したり興味を持つことと大きく係わる」という事実から、読書を通した情操面の成熟やコミュニケーション力の向上が更に図られるよう「読書リレー」の取組や読み聞かせの新しい展開を進め、猿払の子どもたちの成長を促す取組を進めてまいります。

また、昨年度実施した社会教育委員による生活に役立つミニ講座も大変好評を頂いておりますので継続し、学びによる賢い生活を体感していただき喜びの育む生涯学習を進めてまいります。

新たな学習機会の提供としては、本村出身者で北海道教育大学生が「ふるさとで学ぶ機会を創りたい」という申し出に基づいた体験型学習会を 8 月に実施いた

します。本村出身者の呼びかけに共鳴し猿払に駆けつけてくれる学生は二桁に上り、その情熱を子どもたちの意欲に結びつけられるよう勉強のサポートはもちろん、学ぶ楽しさや自然とのふれあいなど心身の調和のとれた発達を促す「猿払ならでは」の学習機会を「小中学生学習意欲向上サポート事業」として進めてまいります。

また、道工大からの派遣を受ける「科学実験教室(仮)」を実施し、課題を追求したり解明する醍醐味を味わう学習機会も提供し、感動や思考の楽しさを体験できる教育を進めてまいります。

昨年は「うぐいす餅作り」「昆布細工」など本村の良さを伝承したり地場産品の加工講座を開催し、有用感を持てる事業に取り組んでまいりました。今年度も更に発展した内容をめざし、参加者の声を聴きながら生きがいを感じられる事業となるよう発展的に進めてまいります。

猿払村も舞台として登場する三浦綾子氏の「天北原野」に係る展示を三浦文学館と連携し夏に開催し、文学への興味付けとふるさとへの愛着を醸成できるよう取組を進めてまいります。

＊　自ら学ぶ環境の整備

猿払村の教育計画「猿払村の教育を進めるために」を基底に、今年度は猿払村の風土を愛し魅力あふれる地域社会の創造を目標として「自ら学ぶ人づくり」「学びの場の整備充実」を重点に猿払村の教育を進めてまいります。

資料館(S38 建設)については、安全性に問題があることから移転に向けての資料データ化や整理を進め、猿払村の歴史や特徴を知ることができるよう今後の展示や保管についての検討を関係する部署と連携をとりながら進めてまいります。

併せて、文化財試掘調査の結果なども盛り込み猿払村文化財読本の改訂を目指して作業を進め、猿払の文化を目で見ることができるまとめを作成し、ふるさとの学びにつなげてまいります。

昨年度は、既存施設の修繕・営繕計画の見直しを進めまいりました。今年度は、関係する部局等とも協議し望ましい施設営繕の実現に向けた調整を進めると共に非構造物の耐震化に向けた点検を進てまいります。

農環センターや総合体育館の備品として昨年は、バレーボール用の支柱やカバー、卓球台と整備し、利用者から安心して使えるという声が届いております。今年度は、フットサルのゴールやネットを整備し体育館にも優しい備品整備を進めてまいります。今後も利用者の声を聴きながら計画的に安全で活用しやすい環境作りに努めてまいります。

百寿大学の皆さんや講座等に参加した方々に触れるたびに、「学ぶことが人生を豊かにする糧である」ことを教えられます。生涯学習は、それぞれの学びを豊かにする事業でもあり、人との交わりの中で喜びや生きがいにつながるものでもあります。より多くの出会いと学びを広げ村民の皆様にとって有効で意義のある学習機会を提供できるよう、関係部署と連携し社会教育を進めてまいります。

おわりに

平成２６年度の教育行政に関する方針と主要な施策について申し上げました。

持続可能で活力ある社会は、個人の能力を高めるのみならず、多様なつながりや支え合いを形成することにより実現され、更に高次の社会への発展を促すといわれます。

今年の秋には全道へき地複式教育研究大会プレ宗谷大会が浜猿払小学校と浜鬼志別小学校を会場に開催されます。この研究会は「主体的・創造的に学び、豊かな心で　たくましくふるさとを拓く子どもの育成」を研究主題とし、児童生徒一人一人に未来に生きる力を育む学校・学級経営と学習指導の充実をめざして開催されます。そのため本研究大会は、教育研究の深化と多様なつながりを生みだし本村の教育推進にとっても大きな前進を図るものと確信しております。

教育委員会といたしましては、積極的な学びが児童生徒はもちろん村民一人一人のふるさとへの愛情や誇りにつながり、学びによる成長の実感が持てる取組を学校教育と社会教育の特性を生かし推進してまいります。

議員並びに村民の皆様のご理解とご支援をお願い申し上げ、教育行政執行方針といたします。

平成２６年３月１１日

猿払村教育委員会